

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-48	実施計画番号	61	事業開始年度	平成25年度
事務事業名	キャリア教育に関する研修会の実施			事業終了年度	—
担当課名	指導課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	キャリア教育の推進のための講義、実践発表、情報交換等を盛り込んだ、キャリア教育研修会を実施する。				
事務事業の目的	児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に必要とされる教育活動を推進するために、キャリア教育に係る教員の指導力向上を図る。				
実施状況	悉皆参加の研修会を実施し、市内の企業や事業所の社長等の講話、及び市内小・中学校の実践発表等を通して優れた取組について共通理解している。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	5	5	5
	人件費(千円)	180	180	180
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		6	21	8

【指標】

活動指標	活動指標名①		研修会参加者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	33	30	30
	活動指標名②		参加者アンケート「内容について」良かった割合			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			%	100	100	100
成果指標	成果指標名①		全国学力調査で「将来の夢や希望をもっている」と回答する小学6年生の割合			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			%	100	100	100
			目標値	100	100	100
			実績値	91.4	92.0	
			達成度(%)	91%	92%	
	成果指標名②		全国学力調査で「将来の夢や希望をもっている」と回答する中学3年生の割合			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		%	100	100	100	
		目標値	100	100	100	
		実績値	79.0	82.6		
		達成度(%)	79%	83%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">児童生徒が将来に夢や希望をもつことは、学校生活の充実のために不可欠である。そのために、キャリア教育に係る教員の指導力向上を図る本事業は、時代の流れに沿った妥当性があるものとする。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	児童生徒が将来に夢や希望をもつことは、学校生活の充実のために不可欠である。そのために、キャリア教育に係る教員の指導力向上を図る本事業は、時代の流れに沿った妥当性があるものとする。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
児童生徒が将来に夢や希望をもつことは、学校生活の充実のために不可欠である。そのために、キャリア教育に係る教員の指導力向上を図る本事業は、時代の流れに沿った妥当性があるものとする。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">本研修会参加者のアンケート結果から、満足度が高く、さらに、児童生徒の「将来の夢や希望をもっている」割合が順調に増えていることから、本事業は、教員、児童生徒にとって有効であるとする。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	本研修会参加者のアンケート結果から、満足度が高く、さらに、児童生徒の「将来の夢や希望をもっている」割合が順調に増えていることから、本事業は、教員、児童生徒にとって有効であるとする。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	本研修会参加者のアンケート結果から、満足度が高く、さらに、児童生徒の「将来の夢や希望をもっている」割合が順調に増えていることから、本事業は、教員、児童生徒にとって有効であるとする。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">交通費のかからない市内の企業や事業所の社長を講師に招いたり、市内の学校の先生を実践発表者に行っているため、これ以上のコスト削減はできないとする。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	交通費のかからない市内の企業や事業所の社長を講師に招いたり、市内の学校の先生を実践発表者に行っているため、これ以上のコスト削減はできないとする。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	交通費のかからない市内の企業や事業所の社長を講師に招いたり、市内の学校の先生を実践発表者に行っているため、これ以上のコスト削減はできないとする。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市内全ての小・中学校の教員が参加し、各学校へ研修内容を伝達しているため、学校による受益の偏りはないとする。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市内全ての小・中学校の教員が参加し、各学校へ研修内容を伝達しているため、学校による受益の偏りはないとする。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市内全ての小・中学校の教員が参加し、各学校へ研修内容を伝達しているため、学校による受益の偏りはないとする。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

キャリア教育の充実、本市学校教育の重点課題の一つであるため、研修内容の充実を図りながら継続する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

市内で成功している企業や事業所の社長等を講師に招き、求める職業人等について教員が直接学び、それらを児童生徒に教授することにより、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立をめざしていく。